医療ソーシャルワーカー（MSW）
ご相談の一例

＜入院前後のご様子＞

患者さんは癌治療で相澤病院に通院されていました。
ある日、脱力、体動困難があり、相澤病院救急外来を受診、
入院となりました。

患者さんは3人暮らしでしたが、他の家族も足が悪く、
何とか生活している状態でした。

＜入院中の経過＞

入院後、厳しい状態の時もありましたが、治療が進み、歩行器歩行もできるようになりました。ただ、食事量が少なく点滴も続けている状態でした。

医師からは、癌の進行もあり、食事量が十分ではないものの、病状は安定してきたので、自宅での生活が最後のチャンスになるかもしれないとお話がありました。

家族は、「一緒に自宅に連れて帰りたい」と患者さんの気持ちを最優先に考えていました。

＜初回面談＞

医師からの説明後、医療ソーシャルワーカー（MSW）が、自宅で一緒に過ごしたい、サービスの意向を家族に改めて伺いました。

「自宅で看取りはしたい、でも、前のかかりつけ医は来てくれるか心配。看護師さんやベッドとかも無いし。どうしたら、、、」

安心して自宅に帰るためには、自宅で訪問診療してくれる「かかりつけ医」を見つけたり、自宅に看護師さんに来てもらうなど、在宅サービスの調整が必要となります。

そこで、家族の思いを一つ一つ確認し、退院に向けて相談を進めていくこととなりました。

＜退院に向けての準備＞
①介護保険の新規申請、認定調査
②かかりつけ医への訪問診療、看取り対応、点滴等の相談
③ケアマネジャーの事業所、訪問看護、福祉用具等の調整
④退院後に続く医療手技、介護方法の家族練習など

家族は、自宅の準備を進めるにあたり、「オムツの交換などの介護方法」や「必要な医療処置」について不安に思っていました。

入院中に自宅退院に向けて不安なことがあれば何でも相談頂き、多職種と連携していくこととしました。

医療ソーシャルワーカー（MSW）は、医師や病棟看護師、訪問看護師に相談し、1つ1つ家族の不安を軽減していきました。

もともと通院していた「かかりつけ医」がありましたが、しばらく受診していませんでした。

家族からは、「小さい頃からお世話になっていた先生に最期は看取ってもらいたい」との思いがあり、患者さんや家族が信頼できる「かかりつけ医」を見つけることにしました。

地域医療連携室と、家族の希望や病状含めて退院後の対応について希望する「かかりつけ医」に相談したところ、快く引き受けてもらえました。その後、退院後のサービスを多職種が集まって確認する「退院前カンファレンス」を実施することにしました。

＜退院に向けて＞

患者さんの状態は日に日に変わりました。家族も少しずつ受け止め、自宅に向けて医療処置、介護方法を練習していきました。

退院の目処がついてきた頃に院内外の関係者が集まり、退院カンファレンスを行い、引継ぎと退院後の生活について相談する場を設けました。

＜退院前カンファレンス＞

＜出席者＞

家族・かかりつけ医・ケアマネジャー・訪問看護師・ヘルパー・福祉用具業者

医師・病棟看護師・リハセラピスト・退院支援看護師・MSW

＜カンファレンスでの様子＞

かかりつけ医より、「本人や家族が希望されれば、点滴など行います。在宅の体制を訪問看護師としっかりと整えます。お看取りまで診させて頂きますね。」

家族は、食事が摂れなくなってきたら出来る範囲で点滴をしながら自宅で生活したいこと、家族も出来る範囲での介護を手伝いたいのでヘルパーや訪問看護師に相談していきたいなどの思いを1つ1つ確認していきました。

ケアマネジャーから、家族で過ごす時間を大切にするため、ベッドの位置や住環境の調整、訪問看護師やヘルパーの訪問時間なども相談しました。

何か困った事があれば、いつでも連絡ができるように窓口を確認し、家族も安心して退院準備を進めました。

退院日自宅到着後に訪問看護師の訪問の手配、退院日当日の状況を病棟看護師から直接、訪問看護師に連絡してもらうようにしました。

＜退院後のサービスと退院日＞

自宅に退院するにあたり、病院での治療となるべくギャップを減らし、介護保険を活用し下記のようなサービス調整となりました。

①訪問診療　週1回　状態をみながら適宜
②訪問看護　週3回　点滴や全身管理目的
③ヘルパー　週2回　自宅での入浴目的、その他
状態によって訪問入浴へ変更
④福祉用具　介護ベッド、エアマット、車椅子、手すり等

＜退院後の生活＞

家族は、出来る範囲での介護をヘルパーや訪問看護師と一緒に行っていました。

退院から1週間、吸引やベッドの生活が増え、かかりつけ医や訪問看護師、家族が見守る中、息を引き取られたそうです。

「少しでも自宅での一緒の時間を過ごす事ができて良かったです。かかりつけの先生や在宅支援者がいたからできました。本当にありがとうございました」と家族よりお話がありました。